

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292500012		
法人名	特定非営利活動法人 まごころネットワーク		
事業所名	おおたかの森グループホーム あぜみち		
所在地	千葉県流山市大畔534番地		
自己評価作成日	平成27年1月20日	評価結果市町村受理日	平成27年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA
所在地	千葉県我孫子市本町3-7-10
訪問調査日	平成27年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・同敷地内の同法人別事業所との交流を行い、ご利用者の多様な活動を図っている。 ・同敷地内に菜園、敷地外に広がる農道、畑、林など自然に触れる機会に恵まれている。 ・四季折々の催し物や、季節に応じた外出支援で単調な毎日にならないように配慮している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「笑顔で明るくオープンに！」というホームの理念が、介護サービスや運営の質に大きな力を発揮していることを実感できるホームである。市のグループホーム連絡会で、相互に訪問し合う取り組みに主導的に参画しており、ホーム間で情報を共有し、切磋琢磨することによって地域全体の介護の質の向上に貢献している。日常の活動を、写真を掲載した、臨場感あふれるお便りで紹介することで、家族の安心感につながっていて喜ばれている。この取り組みは今後のグループホームのスタイルとして広く定着するようお願いしたい。ただ、アンケート調査では高齢化の影響もあると思われるが、医療面の心配をする家族が多数いる点については、家族を交えて話し合いを持たれることを期待したい。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	”笑顔で明るくオープンに”というグループホームとしての理念を揚げ、居心地のいい空間作り、外部との交流による風通しのよい生活空間作りにも努めている。	「笑顔で明るくオープンに」することが、利用者・家族、職員にとってホームでの生活が楽しく、暖かく、快適な居場所を作る原点であることを感じさせてくれる。近隣のボランティアの来訪も多く、まさに理念に基づいた実践が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会活動の定期的な清掃行事やゴミゼロ運動に参加。地元農家のふれあい市場に出掛けたり、地域の支援サポーターとの交流も積極的に受入している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学、ご相談に来られたご家族にホームの説明をし、必要に応じてアドバイスをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	それぞれのお立場からの貴重なご意見をいただき反省材料、今後の課題として取り組んでいくようにしている。	今年から2か月に1回開催しており、市職員、地域包括センター、民生委員のほかに家族の参加が多いのが特徴である。家族は、ホームの状況を具体的に知ることができる機会ととらえているようだ。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や消防訓練にも市の担当職員の方に来ていただきからのアドバイスをいただいている。2か月ごとのグループホーム連絡部会でも市の担当の方に参加していただいている。	施設長の長年の地域福祉活動で、行政の信頼は厚く、支え合う関係ができています。3か月ごとに開催される、グループホーム連絡会への参加を通じて市の関係者とは連携が取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	声かけひとつでも自由を制限することにつながるかと心得、全職員で意識的に取り組んでいる。また、研修で学んだことをミーティング等で伝え、実践で役立てている。	身体拘束については職員会議でも議題に取り上げ、全員で事例検討したり、理念との関連についても話し合うなど、理解を深める努力がなされている。利用者との家族的な接し方の限度などについても話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県の身体拘束廃止研修で学んだことを職員と共に話し合い、また、それと同時に職員のストレス管理にも気をつけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、学んだことを他の職員にも伝え、活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はもちろん、随時疑問点には説明を付け加え理解をはかっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加を呼びかけ、また、受診時を利用して家族への報告を利用したり、家族からの要望をお伺いしている。	家族会といったものは行っていないが、運営推進会議に積極的に参加を呼び掛けている。また家族にはふんだんに写真の入ったお便りを発行し、日ごろの活動をビジュアルに伝えることで理解を深めることに繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の月例ミーティングで意見提案を出せる他、気付いた時点で話し合い、反映させられるようにしている。	定例の会議での意見交換だけでなく、日常の中で気軽に意見が出せる関係ができています。管理者は、出された意見の意味に気づいたり、その背景を読み取る感性を持ち合わせており、意見が運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に給与の見直し等、やりがいに通じる職場環境に気を配っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の個性や適性を考慮して、職員一人ひとりに合った研修を勧め、また法人内の研修を奨励している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の連絡部会で相互訪問の形をとり、研修を受ける機会にしたり、情報交換の場としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から発せられる言葉、表情、しぐさをよく観察し、記録していき本人の困っている状況の把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人が同席をしていない所で時間をかけて傾聴し、ご家族の心の安定にも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスも含めたベストな方法を探るためいろいろアドバイスもさせていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室の清掃、洗濯物干し、洗濯物たたみ、調理、配膳等に協力していただき、助け合う関係を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	自宅への外出、外泊などで家族の協力を得ながら本人を共に支えていく連携づくりを実践している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	週3回の食材購入でスーパーへ行く時に同行していただいたり、ご家族の協力も得て馴染みの場所、関係を継続できるようにしている。	馴染みだったスーパーへの買物に同行したりお祭りや花火大会を見に行くなど支援している。また家族の希望もあり、住み慣れた自分の家で過ごせるよう週末には外泊される方もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がうまくパイプ役となり、利用者同士の関わり合いが増えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後でも、訪ねて来てくださるご家族様もあり、また、移られた施設を訪問し面会させていただいたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活動作、会話、表情などから気づきを職員間で申し送り、記録に落としカンファレンスで話し合い、統一したケアに努めている。	入居時には十分なコミュニケーションに努め、本人の発した言葉を集めたり動きを観察して、全体像を推察している。困難な方には表情や動作等から気づきを話し合い、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの言葉や、ご家族からの情報、以前のケアマネージャーからの情報等によりおおむね把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の個々の介護記録から読み取ったり、申し送りノートを活用して職員間で共有、把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が生きがいを持ち、今以上により快適に過ごせるように日頃から本人、家族、関係者と話し合い、希望や意見を大切にしながら現状に即した介護計画作りを努めている。	本人・家族のニーズや個別介護記録・申し送りノート、月例ミーティング等を基にケアカンファレンスを行っている。緩やかな変化にも気づき、悪化していかないよう現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート、個別介護記録、口頭での申し送りにより情報を共有し実践に役立たせている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	機能訓練や出張による理美容、また、訪問歯科、訪問診療等を個別に受け入れる体制をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアグループや介護支援サポーターを受け入れ、積極的に地元の行事にも参加するようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族が定期受診に付き添われるが、必要に応じて職員が対応したり、同行し医師に説明もしている。訪問診察医の協力も得ている。	月2回の担当医往診、歯科医訪問、ホームの看護師のアドバイスなどがあり、医療との連携を図っている。入居前からのかかりつけ医通院は家族が対応するが、必要に応じ職員が対応したり同行して、医師に説明もしている。	高齢化の影響もあると思われるが、アンケートでは医療面の心配をする家族が増えている。家族を交えて話し合いを持たれることを期待したい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師にアドバイスしてもらったり、実際処置してもらっている。訪問看護師からアドバイスをいただくこともある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院には速やかに情報を伝え、治療の役に立つように努め、相談、連絡も必要に応じて、すぐ対応できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療と連携で事業所で出来ることを十分お話した上で、終末期の看取り支援が出来るか、段階を追ってご説明するようにしている。	重度化した時に、胃瘻などの特段の医療の必要性がなく口から食べることが可能であれば事業所が出来ることを充分話している。、医療との連携と、家族の要望と協力を得ればこそその看取り支援を説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間、急変時の対応マニュアルは全職員に周知させ、ミーティング等でも話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回行われる消防訓練を通して利用者の状況に応じた避難方法は学んでいる。また、推進運営会議や消防訓練時に市の担当職員や地域の方々にも来ていただき、よりよい避難方法を話し合っている。	消防署指導を含め年2回の訓練を行い、利用者の状況に応じた避難方法等の体得に努めている。運営推進会議や消防訓練時に市担当者や地域の方々への参加も得て、よりよい避難方法を話し合っている。水・食料など3日分の備蓄をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄に関する誘導の声かけは耳元で行い、プライバシーも考慮して、個人的なことは話題にしないようにしている。	声かけや言葉遣いなど、家族や身内に使うような馴れ馴れしい言葉は使わない。触れられたくない話はしない等一人ひとりの人格の尊重と排泄や入浴時にはプライバシーに配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人との信頼関係を築き、自己決定の機会を大切にできるようゆとりを持って接するようになっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先したかわりになっていないか見直し、本人のペースを大切にするかわりに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を一緒に選んだり、鏡を見ながら髪をとかしたり、アクセサリや小物でおしゃれしてもらったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、調理、洗い物の手伝いをさせていただいたり、テーブル拭き、配膳・下膳も声かけしてやって頂くようにしている。	野菜の下拵え、盛り付け、配・下膳等出来る方は職員と一緒にしている。おせち等の行事食やセントラルカフェで誕生会を行うなど食べる楽しみを支援している。状態に合わせた食態や食事介助など、口から食べることを応援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下能力を見ながら食事の形態、量を考え、捕食したり水分摂取にも気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは毎食後全員に声をかけやっけていただいている。就寝前は義歯洗浄剤を使用。口腔内清拭も含め念入りに行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の排泄パターンや習慣に合わせて声かけ誘導するようにしている。できる限りトイレで排泄をしていただき、安易にオムツ使用にしないようにしている。	自立の方もあり、できる限りトイレでの排泄を支援している。排泄パターンや習慣を把握し声かけや誘導をして安易にオムツ使用にしないよう、普段から排泄の自立にむけた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を多くするように取り組んでいる。適時便秘薬も使用したり、便通を促す運動や食物を意識的に取り入れるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	通常昼食後が入浴タイムだが体調、希望により、夕食後でも対応できるようにはしている。入浴に関して家族の協力が得られているケースもある。	毎日、主に午後、入浴を支援している。入浴を好まない方には言葉かけや時間帯を変えるなどして対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の状況に応じて、昼間でも眠そうであれば声をかけ、1時間以内で居室ベッドやフロアーのソファで横になってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬実行のチェックをし、忘れないように努めている。薬の注意書きは頭に入れておき体調変化に気づけるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所の洗い物、洗濯物たたみ、洗濯物干し等の家事はお願いするとやったださっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は中庭へ出たり、農道を散歩したり、ドライブに出かけるようにしている。食材購入のためのスーパーへの外出、地域の行事への参加もしている。家族が外食へ誘って出掛けられることもある。	広い中庭での外気浴や、周りの農道等を散歩をしている。近隣の幾つかある公園には車でよく出掛けている。また食材購入時にスーパーと一緒にいく、地域の行事へ参加する、家族と外食に出掛ける等、日常的な外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭を所持していただき、買物にも同行して希望に応じて使っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば家族にはこちらサイドで電話を掛け、本人と話をしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内装飾や植物などで季節を感じてもらえるように工夫している。心地良いBGMを流したり、製作物や写真を展示して、いつでも楽しめ、くつろげる空間になるようにしている。	居間には季節の作品が賑やかに飾られ、緑の鉢植えも多く置かれている。居間で作品創りや、歌を歌ったりゲームをしたりなどして、利用者は一日の大半を過ごす居心地の良い寛げる場になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのメインテーブルはそれぞれに気に入った席が決まっており、奥に広がるティーラウンジも一人になりたい時や、家族との面会に利用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具、装飾品、ぬいぐるみ、仏壇等自由に持ちこんでいただいている。また、利用者同士でお互いの居室を訪問し合い会話が弾むきっかけにもなっている。	使い慣れた家具や小物、ぬいぐるみ、仏壇等を持ち込み各々好みに配している。部屋いっぱい作品を飾る方、シンプルでさっぱりとした居室など個性がうかがえる。居室を訪問し合い会話が弾んでいる方もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室ドアに名札を貼って前に立って確認してから入ってもらったりしている。トイレや出入り口ドアもわかりやすく表示している。		